



- 体育会名: 関西学院大学体育会合気道部
- 創部年: 1960年(昭和35年)
- 2025年度会員数: 42人(4年9人、3年7人、2年10人、1年16人)

- 同窓倶楽部名: 関西学院大学体育会合気道部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称: 合気道部至誠新月会
 - 設立年: 1964年(昭和39年)
 - 会員数: 552人

関学合気道部が同好会として産声をあげたのは1960(昭和35)年4月の事だった。当時、吹田市の町道場で稽古をしていた北後晴久、小形一夫が同じ関学生であったことから親しくなり、北後が小形に「関学に合気道のクラブを作りたいので、ぜひ一緒にやろう」と提案したのがきっかけであった。

しかし合気道は、数ある武道の中で歴史が浅く、創始者である植芝盛平が「合気道」という呼称を使用したのも太平洋戦争の終戦前後と言われている。このため創部当時は合気道を知る人も少なく、2人は当時の師範にも協力を頂き、学生会館で演武大会を開いて部員集めを行った。運動部が稽古風景を公開するのは、これが初めての試みだったのではないかと聞く。

初代主将となった北後は、関西学生合気道連盟を設立し初代委員長に就任。さらには全国学生合気道連盟委員長にも就任して、第1回全国学生合気道大会を開催する等、まだ創成期であった学生合気道界の牽引役として活躍した。

このような創部当時の先輩方の努力の結果、毎年優秀な部員が入部する事となったが、当時最大の悩みは練習場の確保であった。同好会であるから当然学内に道場はない。このため、剣道部・柔道部・レスリング部等の協力のもと、練習場を借りる事もあったが、基本的には中央芝生やグラウンドの片隅が稽古場であった。

グラウンドの片隅で練習する時は畳をリヤカーで運んで敷いたそうだが、稽古が始まるとどうしても動きが畳の範囲に収まりきらず、直接土や砂利の上に受け身を取ることもあり、苦勞したそうである。

こうした状況は、のちに同好会から体育会に昇格した後も変わることなく、中央芝生、グラウンド、体育館の1階ピロティ等、学内で練習が出来そうなスペースを探しては稽古を行い、さらには学外にも足を伸ばして、甲東園駅から大学までの通学路、武庫川の河川敷、仁川ピクニックセンター、甲山の山頂等、ありとあらゆる場所を練習場として稽古に励んでいた。

灼熱の炎天下でも粉雪舞う厳寒の中でも、常に自然の中で稽古をしていたため、部員は日焼けし、またその道着はいつも芝生の緑色や土の茶色に染められていた。たまに交流稽古を行う他大学の合気道部員から「何故関学さんはみんな道着の膝の部分が緑色なのですか」と問われる事もあったという。

もっとも、中央芝生で稽古を行う事は、合気道部のPRというプラスの効果もあった。こうした日頃の活動状況や当時の幹部の努力もあり、70年4月に合気道クラブとして体育会入りが認められた。さらに、大会での好成績や海外遠征等の活動状況が評価され、74年11月に体育会合気道部への昇格が認められた。

その後も大会での好成績や関係者の理解と協力もあり、84年の学生会館新館の竣工時には合気道部の専用道場が完成、同好会創立以来の悲願であった練習場の確保が実現することとなった。

道場完成以降は、天候に左右されず日々充実した稽古が出来るようになり、大会で安定して好成績をあげることになったのは周知のとおりである。2010年には創立50周年を迎え、同年10月、関西学院会館において盛大な記念式典が執り行われた。

12年8月には、部員全員が東京の合気道本部道場において植芝守央3代目道主から直接指導を受ける機会を得る事が出来た。これは関学125周年記念事業の一環である課外活動高度化推進事業補助金を頂いて実現したが、当部は同好会だった60年代から、開祖植芝盛平翁ならびに植芝吉祥丸2代目道主からも直々に指導いただいた歴史があり、歴代すべての道主から指導をいただいたという経験は、学生合気道界では数少ない栄誉な事と自負している。



また、合気道部の歴史を語るうえで避けて通れないのが女子部員の活躍である。合気道は他の武道と異なり女性でも取り組みやすい事から、創立間もない64年にはすでに複数の女子部員が入部していた。ただし、当時は武道をする女子が非常に少なかったため、中には親に内緒で入部していた部員もいたという。

このような時代背景もあって、女子部員は初代の一代限りで終わり、次の女子部員が入部するまでには10年程のブランクが空いてしまったが、75年頃からは細々ながら女子部員が連続して入部するようになり、今では年代によっては半数以上が女子という事も珍しくなくなっている。

そもそも女子は体格や筋力の面で男子に見劣りするが、日常の稽古で男子とともに切磋琢磨するなかで、体の捌きや技のタイミングを工夫することにより、腕力に頼らず自分よりも体の大きい男子を投げたり、抑えたりできる技術を身につける事が出来るようになる。その結果、大会でも男子と並んで女子も好成績をあげる事となった。

2013年9月には、53年の合気道部の歴史の中で初めて女性の主将が誕生した。これは他の大学合気道部においても稀な話で、歴史ある関学合気道部に女性主将が誕生した事

は、他大学でも驚きと称賛をもって受け取られている事と思われる。

広く女性の活躍推進が叫ばれて久しいものの、なかなかその実現が難しいのが現状だと思われるが、こうした時代において、新しい体育会の歴史を刻むきっかけになるのではないかと、OB 会としても今後の活躍を大いに期待している。

合気道部は関学体育会の中ではまだまだ歴史の浅い末っ子的な存在ではあるが、関学のスクールモットーである「マスタリー・フォー・サービス」と体育会のモットーである「ノーブル・スタボネス」、さらには当部のモットーである「闘志、至誠、感謝」の心をしっかり胸に刻み、かつその実践に努めていけるよう、現役とOB 会が一丸となってさらなる精進と発展を目指していきたいと考えている。

編集担当者 不明